

常任委員会行政調査報告

総務委員会

(○)船橋 厚、○河内 伸一、稲垣 衿子、竹内 里美、澤田 勝己、
小川 真由美、伊藤 宏行)

5月13日(火) 千葉県松戸市

消防通信指令業務の共同運用について

松戸市では、平成25年から6市(松戸市・市川市・野田市・流山市・鎌ヶ谷市・浦安市)で消防指令管制システムを共同運用しています。平成22年度に導入した松戸市のシステムを運用しているため、新規システムの構築は行っておりません。運用経費は、6市の人口割で按分し、松戸市に納付されています。

メリットとしては、指令センターから直接、応援市に対し指令がかけられるようになり、近隣市同士の応援出場が早くなったことなどがありません。



5月14日(水) 千葉県習志野市

公共施設再生計画について

習志野市では、公共施設の老朽化、少子高齢化の進展、将来の財政状況などを見据え、公共施設のあり方を見直し、中長期的な観点から計画的な対策を実施する必要があるとの認識のもと、「公共施設白書作成」と「公共施設再生計画策定」を基本構想・基本計画の重点プロジェクトに位置づけました。

平成24年5月に「公共施設再生計画基本方針」を策定し、その後、施設重視から機能優先へ考え方の転換、予防保全によるライフサイクルコストの削減などを基本とする「公共施設再生計画」が策定されました。



文教委員会

(○)加藤 晶子、○松田 喜久男、熊澤 一敏、谷田貝 将典、
安江 美代子、玉井 宰、伊藤 茂)

5月14日(水) 東京都三鷹市

三鷹市教育支援プラン2022について

平成18年度に策定した「三鷹市教育ビジョン」のもと、「コミュニティスクールの基盤とする小中一貫教育を展開しています。平成19年6月には、障がいのある子どもも学校・家庭・地域の力を得て次代を担う人として心豊かに育っていくことを支援するため、「三鷹市教育支援プラン」を策定し、ネグレクトや不登校等も含め幅広く支援しています。行政・学校・地域がチームワークで連携し、予算をかけずに工夫し、き

め細やかにバックアップをしています。



5月15日(木) 神奈川県川崎市

川崎市立中原図書館について

川崎市では、武蔵小杉駅直結の商業ビル(東急スクエア)内の5階・6階に新図書館を開館しました。特徴としては、平日は9時30分〜21時まで土日祝は17時まで開館しており、45万冊収蔵可能で6万冊は常に貸出状態で、人気のある本は1,000人待ちのものもあり、ネット予約で貸出し可能になるとメール配信があるサービスもあります。また自動貸出機も館内に10台設置されており、ICタグにより全ての本が管理されています。図書館が入っているビル

には他にも認可保育所や学童保育、学習塾やカフェ、スイーパーもあることから、幅広い年齢層の方に活用されています。



福祉厚生委員会

(○)舟橋 秀和、○鈴木 達也、稲垣 守、佐藤 大輔、鈴木 英治、橋本 哲也、成田 隆三

5月15日(木) 静岡県浜松市

健康ポイント制度について

浜松市では、市民の健康づくりを推進する施策、「生活習慣病の発症予防と重症化予防」「健康を守り支えるための環境整備」に基づき健康ポイントを実施しております。健康づくりにポイントを付けて、一定ポイントを貯めた人が特典を受けられる「うつく&スマイル(貯めよう!健康ポイント)」は、市民の「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、企業や団体と協働で気軽に楽しく健康づくりに取り組む市民を増やすことを目的としています。



5月16日(金) 東京都福生市

公立福生病院について

福生病院は、福生市・羽村市・瑞穂町の2市1町、約15万人を対象とした中核病院として災害時の救急医療拠点等として施設が整備されています。改築事業の総額は、約16.1億円。決算見込みでの維持管理費は2億7千万円余。また、事業債の元利償還には東京都が償還補助をしています。明るい病院のつくりや患者・医師・看護師等、人口構成の激変に対応した自治体病院として大変に参考になりました。



産業建設委員会

(○)小島 倫明、○小沢 国大、丹羽 浩、長田 淳、川島 公子、水谷 勉、小林 一

5月8日(木) 広島県呉市

シティプロモーションについて

呉市では、市民全員がシティセールスポイントに展開しており、シティセルスのきっかけは2005年に完成した、かの有名な戦艦大和の10分の1スケールの模型が展示してある、大和ミュージアムが、メディアで取り上げられたことにより、もつと市外にも呉市の良さを発信していこうとした事がきっかけで、平成18年からさらに力を入れ、呉市の魅力を発掘し、現在も進行形で呉市の魅力を発信しています。素晴らしく感じたのが、「伝えておきたい 呉の魅力・お宝90選」という小冊子があり、90という数字は「くれ」をもじって、700以上のスポットの中から選び、この小冊子を小学校の授業でも使用し、郷土愛を育てていることでした。



5月9日(金) 兵庫県尼崎市

シティプロモーションについて

尼崎市では、少子化・高齢化の進行が見込まれる中、現役世代の転入や定住の促進に向け、市の魅力を向上させ、町の価値を高める活動を推進する必要があったため、シティプロモーション事業を行うこととなりました。尼崎版シティプロモーションの特徴は、「尼崎を好きな人を増やすこと」であり、「尼崎を好きなこと」を「あまらぶ」と名付け、「あまらぶ」な人や「あまらぶ」な人を増やすための物・事・情報があふれる町を目指している点にあります。また事業はすべて市職員と関係者による手作りであり、外部への委託事業はほとんど含まれていないことから創意工夫をし、シティプロモーション事業が展開されることも大事なことであったと感じました。

